

美和神社

和名砂石上郷あり

美和は假字也○祭神大物主命歟○福里村に在す、式社例祭月日、備陽國誌に、正徳年中、上道部大多羅村に移して寄宮とす、今社地のみ残り、其後延享年中、大多羅福里の村民歎によつて、福里に歸座すと云り、「國人平賀某云、昔は石上村にあり、今多賀神社の地、古の美和神社の地也、何年の頃か、多賀社を建、慶安の頃か、烈公御時、福里に新田出来神社を勧請せむと里人いへる時、美和の方を移して多賀ばかり残り、

類社

大和國城上郡大神大物主神社の條見合すべし

神位

國內神名帳、從三位美和明神、

片山日子神社

和名砂土師郷あり

片山は加多夜麻と訓べし、日子は假字也、○祭神大山咋神、國誌○土師村に在す、式社例祭月日、

備陽國誌に、古は國府山に鎮坐、後山下に民家出来、いまだ村名なき時、此神名をとり片山家といひし由、今の土師村是也、後今の處へ移すと云ふと云り、

神位

國內神名帳、從二位賀多山大明神、

安仁神社

名神大

明治四年五月十四日被
中列三於國幣
中社一
備前國邑久縣
郡大宮村大
祭神安仁神
祭日十一月
一日

安仁は假字也○祭神詳ならず○藤井村に在す、式社例祭月日、○式三、臨時名神祭二百八十五座、略備前國安仁神社一座、

備陽國誌に、康永三年四月、火災此時記録等燒亡せり、古は社頭莊廳にして、神事嚴重に、敕使參向の儀式等あり、今に社頭の北の方に、敕使屋敷の跡ありと云り、「國人平賀某云、貞治元年、邑久郡豊原庄四至傍爾、庄内ノ二町、當國二宮御領山、古は吉備津ヲ一宮ト云、安仁ヲ二宮ト云ン也、

神位

國內神名帳、正二位安仁大明神、

名神

續日本後紀、承和八年二月己酉、備前國邑久郡安仁神預ニ名神ニ焉、

社領

高五石、池田家寄附、

備陽國誌に、中比社領も凡千三百石計ありし由、金吾中納言秀秋の時没收す、其後輝政君の時、社領五石寄附と云り、

赤坂郡六座

並小